

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和08年07月24日

計画の名称	自然と人・歴史が共生する鎌倉都市公園等整備事業（第3期）																				
計画の期間	令和02年度 ～ 令和06年度（5年間）										重点配分対象の該当										
交付対象	鎌倉市																				
計画の目標	一般に、都市の緑が持つ機能には、新鮮な空気を提供し快適な環境を作り出す基本的な機能はもとより、生物多様性の確保、レクリエーション活動の場提供、都市景観の形成、都市環境負荷調整、防災などがあげられますが、鎌倉市における樹林地は、昭和37年から平成2年にかけて大規模開発等により急激に減少し、約500haの樹林地が消失しました。その後も小規模な開発により徐々に減少しています。 特に減少の激しい市街化区域の緑地を守ることで、緑のネットワークを維持し、都市環境負荷の軽減・古都鎌倉の都市景観の向上を図ります。 また、緑のネットワークの維持にあたり、先導的・モデル的な観点を持った公園緑地の配置計画の策定を推進するため、鎌倉市緑の基本計画の改訂を行います。																				
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		1,155		A	1,155		B	0		C	0		D	0		効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）		0		%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R2	R4	R6
1	多様な公共サービスを提供する都市公園の面積を市民1人当たり8.7㎡（R2）から10.3㎡（R6）にする。 ・人口と供用開始している都市公園面積から一人当たりの都市公園面積を算出する。 都市公園の供用面積/鎌倉市内の人口	8㎡／人	㎡／人	10㎡／人
2	地球温暖化の緩和に資する公園緑地を永続的に確保し、そのCO2吸収量を3941t-CO2/年（R2）から4006t-CO2/年（R6）にする。 ・適切に管理された公園緑地のCO2吸収量を算出する。 15.73t-CO2/ha・年×面積ha(t-CO2/年)	3941t-CO2/年	t-CO2/年	4006t-CO2/年
3	市街地での洪水や土砂流出を抑制するため、雨水浸透機能を有する公共による自然的土地利用の面積を250ha（R2）から254ha（R6）にする。 ・雨水浸透機能を有する公共による自然的土地利用の面積を算出する。 公共による自然的土地利用の面積	250ha	ha	254ha

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	鎌倉市	直接	鎌倉市	－	－	鎌倉市グリーンインフラ 活用型都市構築支援事業	用地取得、園路等整備 36.4 ha	鎌倉市	■	■	■	■	■	1,149	－	－
	A12-002	公園	一般	鎌倉市	直接	鎌倉市	－	－	鎌倉市公園事業特定計画 調査	鎌倉市緑の基本計画改訂	鎌倉市	■					6	-	－
											小計						1,155		
											合計						1,155		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
鎌倉市都市景観部みどり公園課（主管課）において、目標の達成状況やその要因の確認を行い、事後評価を実施。	令和8年4月
	公表の方法 市ホームページに掲載、担当課執務室での縦覧

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・グリーンインフラ活用型都市構築支援事業である山崎・台峯緑地（風致公園及び都市緑地）及び山ノ内宮下小路緑地については、用地取得及び整備工事を実施したことで、約20haを供用開始することができ、市民1人当たりの都市公園面積を10.52㎡/人（令和7年4月1日時点）とすることができた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	・都市緑地や公園の整備により、市内のみどりが保全され、自然豊かな環境、緑豊かな憩いの場としての環境を市民及び来訪者が享受することができた。 ・各自治会やボランティア団体等の活動により、様々な用途に公園が活用され、コミュニティが活性化し、市民だけでなく市外からも利用者が訪れるような、魅力ある空間となっている。 ・緑の基本計画改訂により、「持続可能な緑を目指して -グリーンインフラの考え方-」の概念を本市の緑の特色として位置づけ、新たな視点を加味することができた。

○特記事項（今後の方針等）

・今回の事業期間内で取得しきれなかった用地についても、引き続き用地取得及び公園整備を行い供用開始していく。
 ・今後も市内の緑の保全や市民・来訪者へ自然豊かなレクリエーション環境を提供していく。
 ・整備後の都市公園については、各自治会やボランティア団体等との調整・連携を進めながら、活発な市民協働と共に維持管理に努める。
 ・令和4年に改訂した鎌倉市緑の基本計画においてもグリーン・マネジメントの実践を継続し、緑の持つ諸機能の向上とグリーンインフラとしての取組を進め、緑の将来都市像の実現を図る。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	市民一人当たりの都市公園面積（㎡/人）		
	最 終 目標値	10㎡／人	
	最 終 実績値	10㎡／人	
2	CO2吸収量（t-CO2/ha・年）		
	最 終 目標値	4006t-CO2/年	地権者との調整に時間を要すなど、用地取得の進捗が当初の計画よりも遅れたため。
	最 終 実績値	3994t-CO2/年	
3	自然的土地利用面積（ha）		
	最 終 目標値	254ha	地権者との調整に時間を要すなど、用地取得の進捗が当初の計画よりも遅れたため。
	最 終 実績値	253ha	